TANUMA MACHIOKOSHI

写真展
懐かしの味
プロジェクト

～地域プロジェクト演習～

宇都宮大学地域デザイン科学部が、1年間を通して実際に地域が抱える課題を調査・整理し、解決策を提案する授業です。

「田沼駅周辺地域のにぎわい創出」

令和6年度　活動報告

宇都宮大学　地域デザイン科学部
地域プロジェクト演習　12班

はじめに

今年度の活動について

昨年に引き続き、田沼駅周辺地域の賑わい創出を目指し、現地調査やイベント開催の企画を行いました。現地調査でわかった地域の課題から「人々のつながりの再構築」が必要と考えました。それを踏まえ、たぬまふるさと祭りでは「懐かしの味復刻プロジェクト」と「写真展」の二つを企画しました。

「懐かしの味復刻プロジェクト」「写真展」について

これらの企画は懐かしの味で昔を振り返り、地域住民をつなげるとともに、写真展で地域の昔と今を知り、これからの田沼について地域の皆さんに考えてもらうことを目的としました。また、写真展の中の頑張っている人紹介で、これからの田沼を盛り上げる人の発見も狙いました。

イベント内容

令和6年10月27日(日)にたぬまふるさと館を会場としてイベントを開催しました。

イベントでは、昨年度に田沼で行った「懐かしの味人気投票」で2位に輝いた「チョコケーキ」を再現しました。さらに、田沼の方々が楽しむことができるイベントづくりを意識しました。

イベントの様子

ケーキへのメッセージ

チョコケーキの再現
昔の写真展示

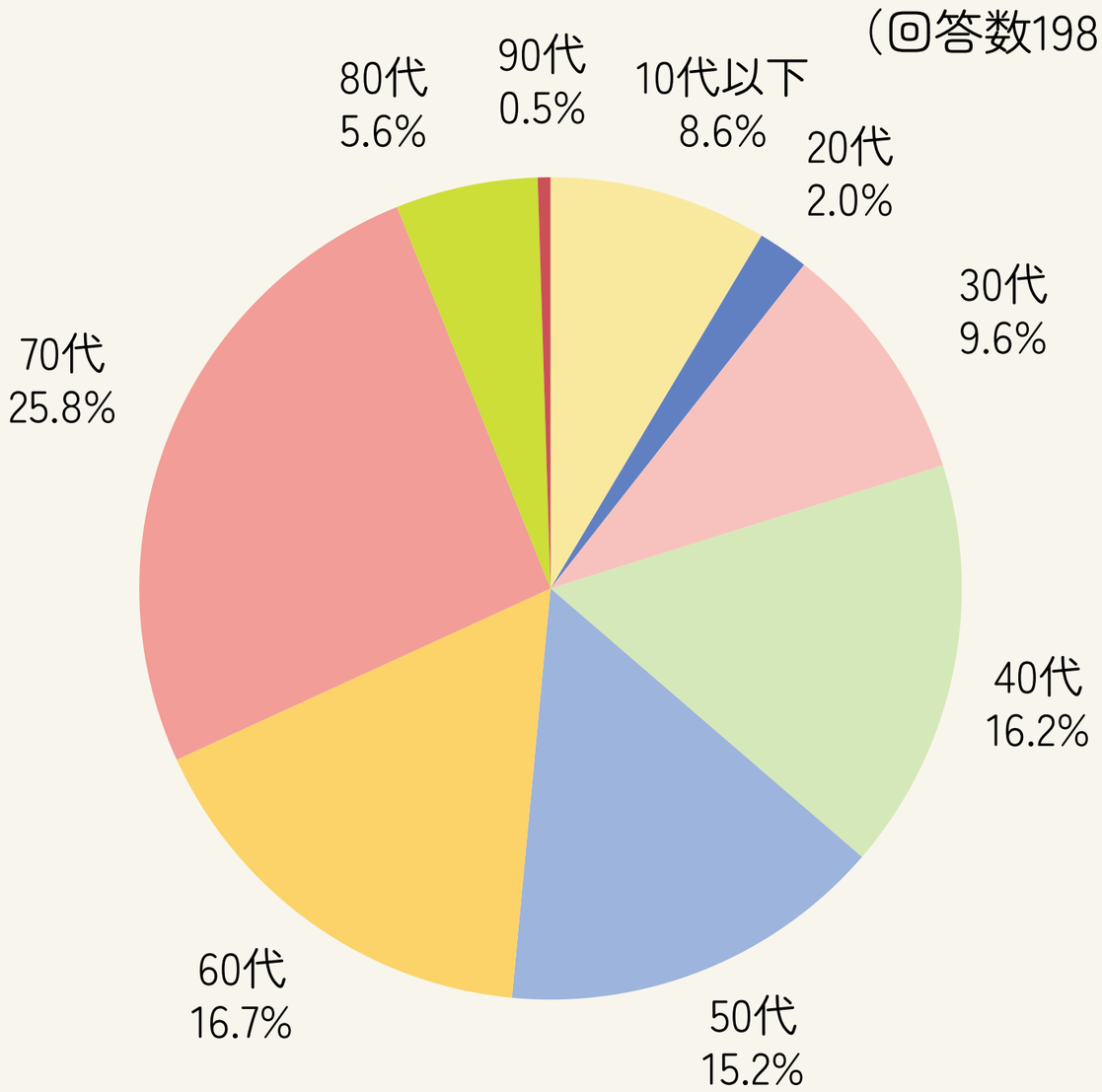
スタンプラリー

このイベントを通して、田沼の活性化について地域の皆さんに考えてもらうきっかけづくりを目指しました。また、同日開催の「たぬまふるさと祭り」と連携したスタンプラリーを行い、イベントの集客に取り組みました。

アンケート調査の結果

参加者の年代

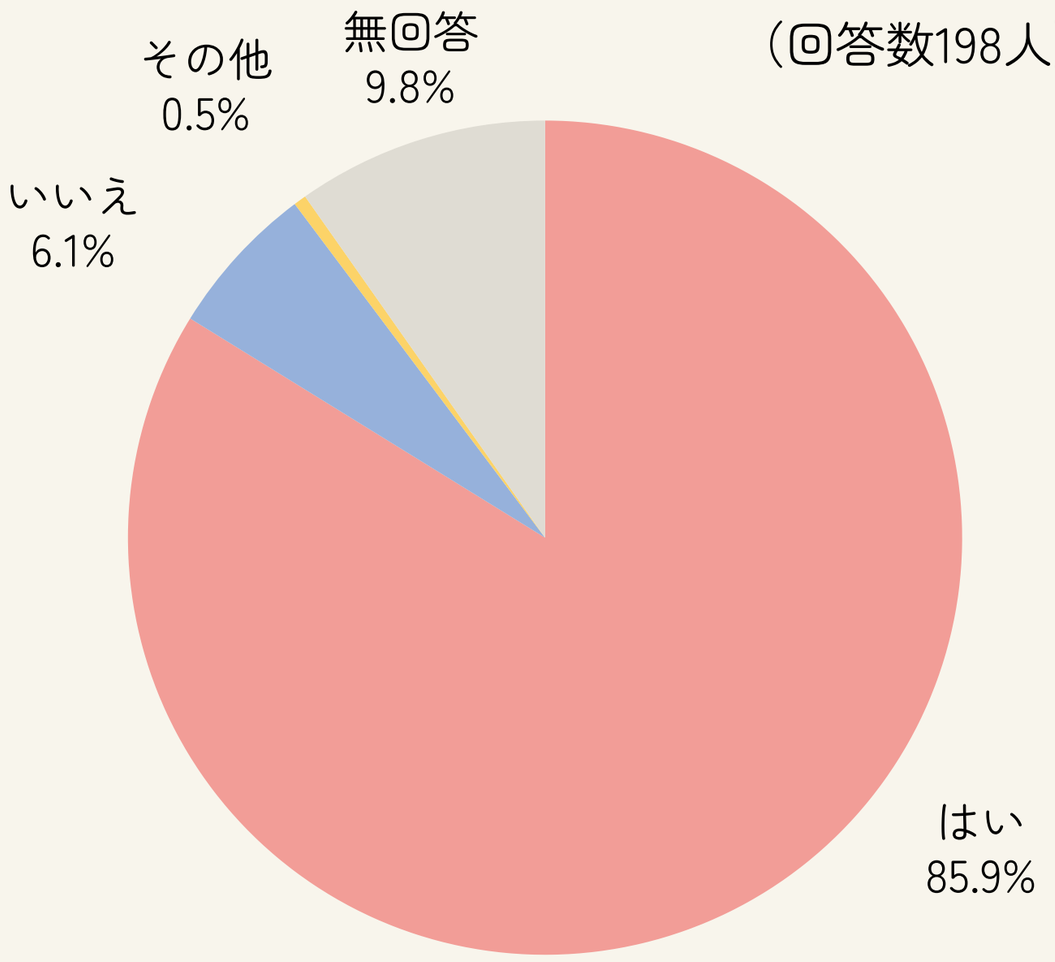
（回答数198人）



たぬまふるさと館で開催された写真展には約200人の方が参加してくれました！！
ご家族でいらした方々が多く見られ、幅広い世代に参加していただきました！！

イベントを通して田沼の町おこしに興味を持てたか？

（回答数198人）



アンケート結果から
このイベントを通して、多くの人に田沼の町おこしに関心を持っていただけました！

よせられた意見・分析

- 田沼に関する印象には寂しい印象を持っている方が一定数いた。
- 若い方に対しての期待が大きい。
- 若い方が多く活気がある街になって欲しいという声が多かった。
- 昔の建物の活用
- 空き家の活用
- 女性の参加者の割合が高かった。
- 来場のきっかけとしては、「店舗等でのポスターの掲示」や「友人からのクチコミ」が多く、SNSは少なかった。
- 来場者数が想定よりも多く、用意していたケーキが早い時間になくなってしまい、懐かしの味に対する注目度や関心の高さを感じた。

今後の田沼への提案

活動をふりかえって

私たちはこれまで、**「人々のつながりの再構築」**を目標に、「懐かしの味復刻プロジェクト」と「写真展」の二つを企画しました。「懐かしの味復刻プロジェクト」では、多くの人がこれを話題に日常会話をされたと思います。私たちはこの動きを**「つながりの再構築のきっかけ」**だととらえています。また、「写真展」では、「頑張っている人紹介」や「Before After」を通して多くの人に田沼の未来や町おこしについて考える機会を作ることができたと思います。

田沼のこれから

町に活気が戻るきっかけ、町おこしについて興味をもつきっかけ、頑張っている人について知るきっかけなどのきっかけを作ることができました。ここからは**「いかにこの動きを持続させる」、または「知らない人に広げていく」かが課題となります。**様々な方法があると思いますが、私たちでも一つ方法を考えてみました。

提案

1．まちなかのカフェを交流とチャレンジの場所に

・この地域には、「みんなが気軽に立ちよれる場所をつくり、田沼を盛り上げたい」という思いをもったカフェなどの飲食店があります。

2．具体案

・田沼には、まちづくりに積極的な高校生や事業者、地域おこし協力隊の方々などの多くのプレイヤーがいる。

・地域活性化の思いをもったカフェをそのような方々の**交流の場**とし、そこから生まれた地域を盛り上げるための**案を実行できる場**にもする。

3．市役所や地域の人への提案

・交流の場を設けることで、イベント等が**持続的に**行われる。

・**盛り上げたい人の繋がりが強くなることで**、活気のある街になり、人のつながりの輪も広がります。

・イベントや交流の場の紹介をチラシやSNSで定期的に発信することで、多くの地域住民が関われるように**情報を広める**。

振り返り

今回の活動では実際のイベントを通して自分たちだけでなく、地域の方々にも田沼について考えるきっかけを与えることができたと思います。

吉田幹太

1年を通して貴重な体験をさせていただきました。地域パートナーや田沼の方々の支えのおかげで無事に活動を締めくくることができとてもうれしく思います。

武田咲姫

懐かしの味が地域の人たちの心に残っていることを大いに実感しました。
これからの田沼に幸あれ！！

望月康平

約1年間の活動を通じてあまり馴染みのない地域の課題や改善案について客観的に考察することができました。

榎本道一

懐かしさによりイベントが盛り上がり地域の方々のつながりを再構築することができたと思います。これをきっかけにより田沼が元気な町になることを願います

加藤伶奈

今回の活動では今まで関わったことのない田沼地での活動ということもあって不安だったが、地域の人々の優しさに触れ楽しく活動することができました。

常井壮太

佐野市産業政策課から

佐野市では、コンパクトなまちづくりを目指し、地域市街地（田沼駅、葛生駅周辺）の活性化に力を入れています。宇都宮大学「地域プロジェクト演習」との連携では、若者目線で地域の魅力や課題を深堀し、実践を伴いながら課題解決策の提案を行ってもらうことで、将来を担う宇都宮大学生の皆さんの成長はもとより、地域の活性化に繋がるものと確信して事業を進めてきました。

この演習が地域デザイン科学部3年生の必修授業であるため、毎年学生の顔ぶれが変わりますが、パートナーである私たち地域の声を真剣に聞いて、課題に取り組んでいただきました。特に令和6年度は、大学より提示されている3年間の最終年度として、都市機能の集中が必要なこのエリアに再び多くの注目を集めることができました。

最後に、3年間の活動を有意義なものとすることができたのは、地域に関係する皆様のご協力によるものです。この場を借りて、御礼を申し上げます。また、田沼地域市街地における宇都宮大学との連携は終了しますが、大学生が醸成してくれた活性化の機運を損なうことのないように、佐野市産業政策課では、引き続き地域の皆様と協働することで、さらなる活性化を目指していきます。ぜひ、一緒に地域を盛り上げていきましょう。

主催:宇都宮大学地域デザイン科学部　地域プロジェクト演習12班
コミュニティデザイン学科　望月 康平
建築都市デザイン学科　加藤 伶奈　常井 壮太
武田 咲姫　榎本 道一
社会基盤デザイン学科　吉田 幹太
グループ指導教員　長田 哲平
協力：佐野市、佐野市地域おこし協力隊　江田睦美
問い合わせ先：佐野市産業政策課
TEL 0283-20-3040　MAIL tk-machinaka@city.sano.lg.jp